

授業科目 実践看護学特論 I	科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 前期
科目責任者	細川 満子	
担当者	細川 満子、鳴井 ひろみ、福岡 裕美子、清水 健史、谷川 涼子、松尾 泉	
1. 科目のねらい・目標 臨床看護の対象となる患者（療養者）・家族に対する理解を深め、看護実践に活用できる概念や理論について探求する。		
2. 授業計画・内容 【細川 満子・松尾 泉】 在宅看護に主に用いられるセルフケア理論、保健行動理論、および生活機能分類（ICF）について理解を深め、実践・研究への適用について探求する。また、在宅看護に関連する施策や制度および在宅ケアシステムの見地から在宅看護の現状について考究し、在宅看護のあり方を展望する。 【鳴井 ひろみ】 がん患者・家族の看護に用いられるストレス・コーピング理論、危機理論、喪失、悲嘆等の理論について理解を深めるとともに、実践および研究への適用について探究する。また、既存の研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察する。これらを踏まえて、がん看護の質向上をめざした実践・研究・教育への活用方法を探求する。 【福岡 裕美子】 老年看護実践のための理論や概念、倫理的課題について理解を深め、看護実践に活用できるように探求する。 さらに、我が国の高齢者に関わる医療保健福祉制度の現状と課題を明らかにし、高齢者がその人らしい生活を送ることができる方法を提供するための老年看護のあり方を探求する。 【清水 健史】 精神看護の対象の精神状態や発達課題について理解し、精神看護に用いられるセルフケア理論、対人関係理論について理解を深め、実践・研究への適用について探究する。 【谷川 涼子】 小児とその家族を対象として理解するために、小児各期の成長・発達理論やストレス・コーピング理論など、小児家族看護学の基礎となる諸理論について学び、看護実践に活かす。また、小児と家族を取り巻く保健・医療・福祉の制度についても理解し、小児看護の現状や課題から小児看護のあり方を展望する。		
3. 教科書、参考書 特に教科書は指定しない。各教員が資料を配布または講義中に紹介する。		
4. 成績評価方法 課題レポート、参加態度で評価する。		
5. 受講要件 看護師免許を有する者。		
6. 社会人学生に対する配慮 夜間開講を基本とするが、受講生と相談の上履修時間を調整する。 WEB ラーニング対応可能。		
7. その他		

